

# 本日の（２）取組報告の流れ

【R3年度末の当検討委員会における今後の方向性】

主に市町村が取り組みを進める中で出てくる具体的な課題や県及び関係機関に対する要望事項への対応方針等を検討する場としていく。



以下のとおり「市町村⇒ブロック域⇒県域」の流れで現在の取組や感じている課題等をご報告いただき、（３）協議ではこれらを踏まえて今後の方向性などを委員の皆さまにご協議いただく。

市町村

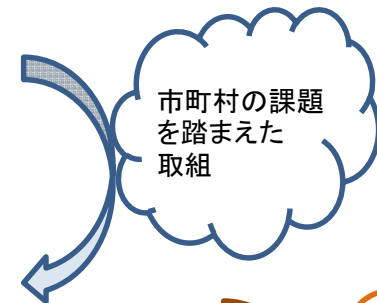
市町村における取組状況及び課題等について（四万十町）

ブロック域（福祉保健所等）

ブロック域における取組状況及び課題等について（須崎福祉保健所）

県域（ひきこもり地域支援センター）

県域における取組状況及び課題等について（ひきこもり地域支援センター）



## (2) 取組報告：市町村における取組状況および課題等について（四万十町）

### ◇基本情報

- 相談窓口：四万十町 ①健康福祉課 ②大正町民生活課 ③十和町民生活課 ④包括支援センター（本庁・大正・十和）
- 実施体制：①職員26人（障害保健主担当保健師2人、その他保健師4人） ②保健師2人 ③保健師2人  
④保健師 本庁2人・大正1人・十和0人 ※その他の専門職：社福4人・助産師1人・看護師2人・管理栄養士1人（正職）
- 市町村プラットフォーム：※資料1（イメージ図）
- 実態把握調査：H29年7月～（保健師により“引きこもり状態にある方”を洗い出し）

四万十町ひきこもり台帳集計結果（概要）

四万十町：ひきこもり状態にある方の傾向					主な障害種別				保健師の介入		
年度	全数	男	女	平均年齢	重複あり				○	△	×
					精神	知的	身体	不明・発達含			
H29年7月	38	28	10	男40歳／女29歳	19	3	1	16	24 定期訪問 エピソード対応	8 嘱託医で経観 随時訪問	6 拒否、家族 のみ等
R1…2…3											
R4年6月	30	22	8	男61歳／女34歳	14	3	2	13	12	8	10
※ 他界・他支援（障害・介護）・転出・入院等											

・つながり～相談の経過	地域（区長 民生委員） 教育研究所（相談員・SSW） 社協 保護課ワーカー 包括支援センター 病院 精保C など…
・主要な支援機関	社協（アウトリーチ） 障害相談支援事業所（一般） 教育研究所相談員 病院 包括支援センター 精保C ヘルパー B型 サポステ など

### ◇取組状況

- 相談業務（訪問活動含む）：地区担当・業務担当保健師、社協（アウトリーチ支援員）、相談支援専門員が相談と訪問を実施
- ケース検討会の実施：定例会（事例検討や研修）や支援会等で共有（精神保健ネットワークや自殺予防連絡会でも課題重複）
- 社会参加への支援：訪問による交流、集いの場や作業所見学などへの連れ出し提案・電話や手紙でのやり取り
- 連携している関係機関等：社協（アウトリーチ支援）・障害相談支援事業所・教育研究所（教育相談員・SSW）・精神科医療機関・  
あったかふれあいC・若者サポステ・福祉保健所（障害・保護）・ひきこもり支援C・精神保健福祉C…

### ◇課題 市町村プラットフォームなどの形はできたが、これらを実際の支援にどのように活かすとよいのか

- 業務体制：本年度から地区担当制にウェイト、担当する業務量により対応に濃淡、継続支援の難しさ
- （内部）関係部署との連携：地域共生社会の構築 → 横の広がり難く保健師対応に留まりがち。支援策が就労目的中心でいいのか？
- （外部）関係機関との連携：ひきこもり支援会議や精神保健ネットワーク会議で顔の見える関係性を大切にしているが、“福祉的視点”が強く  
“保健的視点”で見立てを共有できる身近な支援機関が無い…（見立てができる専門職が身近な圏域毎にあり、必要な支援につながれば）
- 困難事例への対応：課題意識の低い家族や生活困窮など、ひきこもりの人だけでなく家族全体への支援が必要なケースも増え、さらに広域で長期に渡る支援が必要…

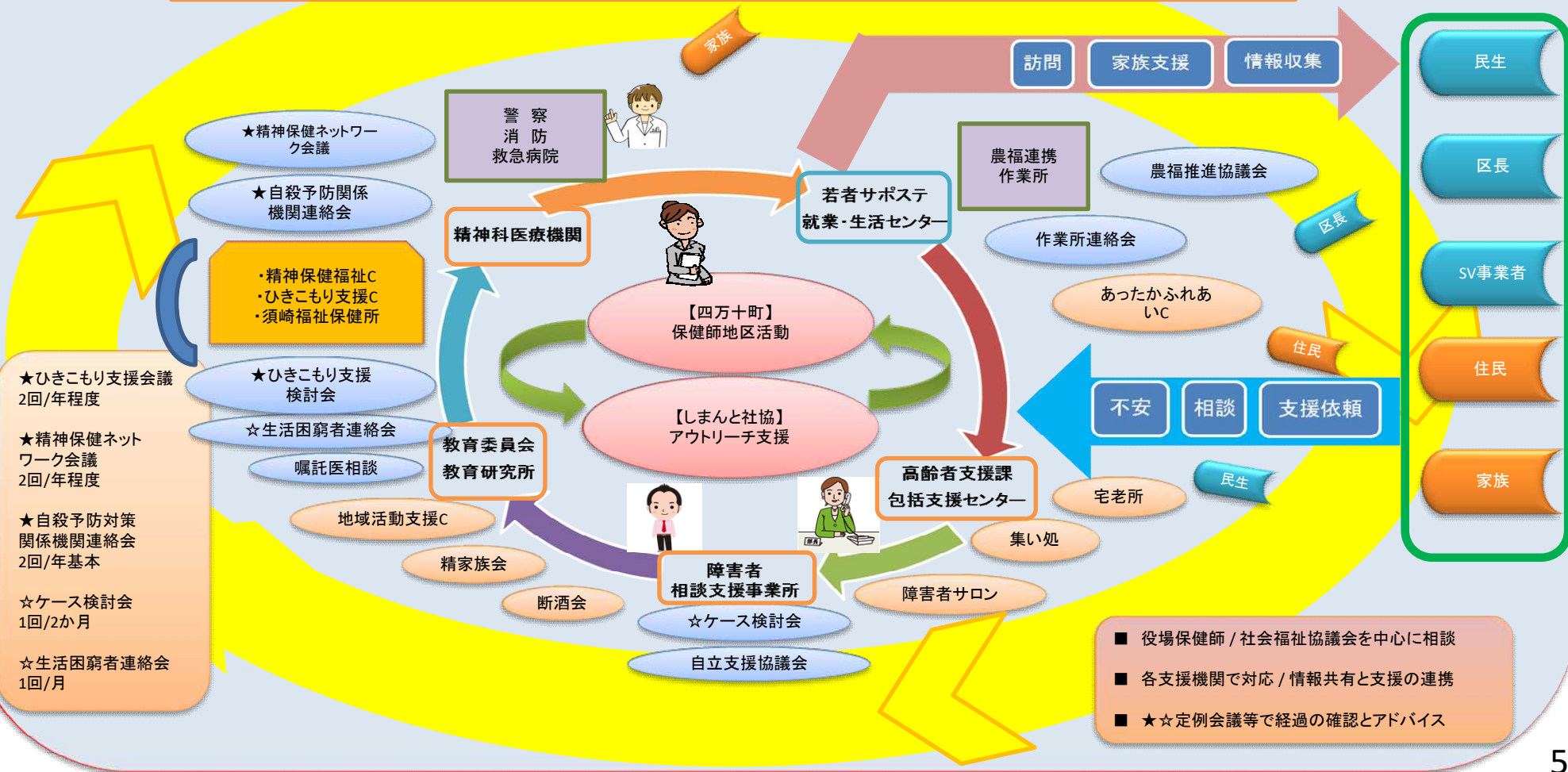
# 四万十町プラットフォーム（イメージ図）R4



高知市  
四万十町  
人口15,933人(R4.4末)  
高齢化率45.2%

【四万十町のひきこもり支援検討の場（既存会議の活用）】

- ◆ 個の把握、支援経過の共有、アドバイス＝「ひきこもり支援検討会」
- ◆ 医療との連携＝“精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築”協議の場「精神保健ネットワーク会議」・・・（地域精神保健の課題を協議）
- ◆ 自殺予防対策＝「自殺予防対策関係機関連絡会」



- 役場保健師 / 社会福祉協議会を中心に相談
- 各支援機関で対応 / 情報共有と支援の連携
- ☆☆定例会議等で経過の確認とアドバイス

## (2) 取組報告：ブロック域における取組状況および課題等について（須崎福祉保健所）

### ◇基本情報

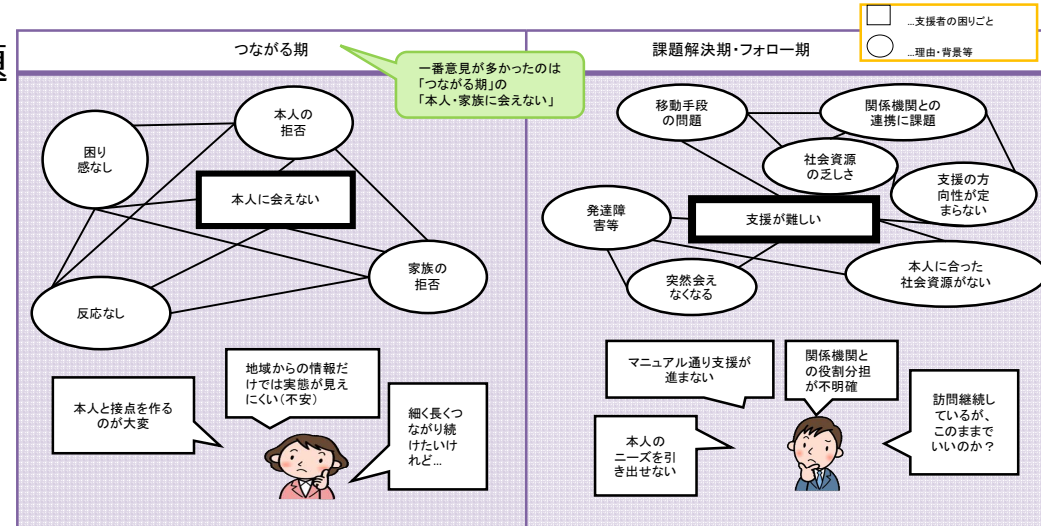
- 管内市町：須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町（1市4町）
- 福祉保健所の窓口：須崎福祉保健所（健康障害課 障害保健福祉担当）
- 地域支援：管内5市町と関係機関を対象に「管内ひきこもり支援に関する連絡会」を年1回程度実施。  
市町開催の「ひきこもりに関する会」への参加。（須崎市：年3回、中土佐町：年2回、四万十町：年2回）
- 直接支援：R3年度は来所相談2件、電話相談0件、訪問支援11件。R4年度も引き続き、支援を行っているケースは1件。

須崎福祉保健所が連絡会にて目指す姿

市町のひきこもりの実態を踏まえケースの見立てや整理ができ、関係機関が連携して管内のひきこもり対策や体制整備が進む

### ◇（連絡会を通じ把握された）市町村等が支援上で感じる課題

- ひきこもり支援の課題や支援者の困り事は「つながる期」に集中
  - ・本人や家族に「会えない」
  - ・十分な情報が得られず実態の把握がしにくい等
- 「課題解決期・フォロー期」の課題としては、
  - ・支援を開始しても安定した支援関係を築くことが難しい
  - ・つなぎ先（居場所等）が乏しい「支援の難しさ」等
- ひきこもり支援は、アセスメントが難しいことから支援方針も立てにくく、支援の行き詰まりを感じやすい。  
⇒その結果、支援者の負担感が大きくなり、モチベーションの低下やケース自体の優先順位が下がってしまう等の悪循環も生じやすい。



### ◇課題を踏まえた、連絡会の機能・役割

各市町・機関の取組を踏まえて・・・

#### 【機能・役割】

- ①情報共有 ②課題等に対する共通認識 ③研修・事例検討

#### 【期待される効果】

- ・支援者のスキルアップ、モチベーションアップ、負担感の減少
- ・市町、機関を超えたつながり強化
- ・ひきこもりに関する圏域の理解促進 等

#### ブロック域での課題（須崎福祉保健所の場合）

「②課題等に対する共通認識」は管内市町間で明らかになりつつあるが、実際の支援をどのように進めていけばよいかを学び、好事例を共有する場の更なる充実が必要。

⇒R4年度は「③研修・事例検討の機能」の充実を予定

## (2) 取組報告：県域における取組状況および課題等について（ひきこもり地域支援センター）

### ◇基本情報

実施体制：職員 5 名（精神保健福祉相談員 2 名、ひきこもり支援コーディネーター 3 名）

### ◇相談実績・傾向（令和 3 年度）

来所相談：実 1 4 6 件／延 8 3 4 件、電話相談：2 1 9 件

- ・来所相談者の 8 割以上が高知市内在住の方。
- ・新規相談のうち、約 8 割は継続した相談に繋がっており、年単位の長期的な支援になる場合が多い。
- ・初回相談の多くは家族からとなっているが、家族相談を継続する中で、本人の相談に繋がる場合もある。

### ◇取組状況（令和 4 年度予定）

#### (1) 地域支援

- ・支援者連絡会議（支援者間での情報交換等により、有効な連携をはかる）：実施済（西ブロック：35名、中央ブロック48名、東ブロック26名出席）
- ・ケース会出席：幡多・四万十町・中土佐町・須崎市・土佐市・いの町・香南市・サポステ他
- ・各福祉保健所への支援：各福祉保健所が実施する、年 2 回程度の連絡会への協力・支援
- ・ひきこもり支援ガイドブックの作成（支援者向け）

(2) 人材養成研修（支援者が支援の実践力を身に付けることで、地域でのひきこもり支援の充実につなげる）：3 回実施予定

(3) 普及啓発講演会、交流会（広く県民を対象に、ひきこもりに関する普及啓発を行う）：3 回予定（第 1 回目は 7/23 実施済）

### ◇課題と対策

#### 【課題】

- 来所相談での直接支援はアクセス可能な方に限定されてしまい、居住地により、支援できる方に差が生じてしまう。
- 長期におよぶ伴走支援のなかで、ひきこもり地域支援センターでの県内全域への直接相談・支援には限界がある。
- 「ひきこもり」の問題に限らず、世帯全体で複合的な課題を抱えたケースが多く、地域のなかで、保健、医療、福祉、教育、就労等多方面からのアプローチ、包括的・重層的な支援体制を構築していくこと、そのために地域資源をコーディネートしていく役割が必要。
- ひきこもり地域支援センターと市町村との連携、地域支援に偏りがある。

⇒市町村が中心となり、ひきこもり支援を進めていけるよう、ひきこもり地域支援センターとしては、直接支援から地域支援中心へ移行していく必要があると考える。

#### 【対策】

- ひきこもり地域支援センターによるスーパーバイズ、ひきこもり支援力向上を目指した研修会の実施等、これまでの取組を継続しながら、地域支援を強化していく。
- 地域でのひきこもり支援に活かせる支援ガイドブックを作成し、配布するとともに、福祉保健所と連携し、圏域単位での連絡会や研修会実施への支援を行い、全市町村の支援力向上、支援体制の強化を図る。

#### コーディネートの具体例

安芸福祉保健所が中心となり、自殺対策ネットワークを立ち上げ、様々な機関が集まり、お互いの機関を理解し相談し協働できる体制が構築された。実務的につながる仕組みが出来、コーディネート役として保健所が役割を果たしている。